



©Kazuo Kitai, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

## 北井 一夫 「フナバシストーリー」

会期：2018年5月25日（金） - 6月23日（土）

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#206

営業時間：12:00-19:00 定休日：日、月、祝日

オープニングレセプション：6月1日（金） 20:00 - 21:00

トークイベント：6月1日（金） 19:00 - 20:00

※北井 一夫 × 鷹野 隆大（写真家）

\*会期中、以下の日程で作家が在廊致します。

5月25日（金）、6月1日（金）、2日（土）、16日（土）、23日（土）

2018年5月25日（金）より、Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku にて、北井一夫個展「フナバシストーリー」を開催いたします。

1960年代、北井は横須賀の原子力潜水艦寄港反対闘争をテーマにした「抵抗」や、大学民主化を要求する学生運動を撮影した「過激派・バリケード」等の刺激的な作品を制作、70年代に入ると、日本の経済成長と共に急速に失われていく農村社会の営みを捉えたシリーズ「村へ」、「いつか見た風景」を発表する等、その眼差しは常に時代と向き合ってきました。そして80年代、バブルに向かいつつあった日本社会の中で、北井の関心は団地や新興住宅地で暮らす人々の生活に移ります。

「フナバシストーリー」は、1980年代に人口が急増した千葉県船橋市の行政から北井が“生活する人たちと町の写真を撮ってほしい”と依頼されたことから始まりました。

当時、船橋市は、東京郊外のベッドタウンとして団地や新興住宅地の建設が進み、住民の8割は新住民（大都市近郊に移住した住民）であると言われていました。新婚で入居し、子育てをし、子供が大きくなると手狭になり引っ越しをしていく。同じ建物が均等かつ無機質に並ぶ区画整理された集合住宅の中で淡々と繰り返されるこうしたサイクルは、より大きな成長を促していきます。しかしながら、それまで自分たちが置かれていた速度とは違う速さで物事が動いていく様に、人々は表面的には発展を喜びながらも戸惑いを覚えていたのではないのでしょうか。北井は、その中で営まれる個々の生活に目を向け、丹念に取材と撮影を重ね、その場所や人々の持つ明るい光を切り出しました。

生活の場は、村が「暗」であったのに対して、団地は大きな窓から室内に光がたくさん入る「明」であった。物や人の存在感も村が「重」であったのに対して、団地は軽くて宙に浮いたような存在感で、すべてが反対側を向いた在りようを示しているのだった。

\*北井一夫「写真家の記憶の抽斗」より抜粋

北井本人が語るように、変遷していく時代の流れを敏感に感じ取り、そしてそれを実直且つ丁寧に撮影することで垣間見られる日常の光景こそが、「フナバシストーリー」なのです。

尚、展覧会のオープニングに合わせ、写真家の鷹野隆大氏をゲストに迎えトークイベントを開催致します。この機会に是非ご参加ください。



## ■作家コメント

久しぶりに「フナバシストーリー」のプリントを抽斗から出してみた。ずいぶん長い時間が過ぎたような気がした。1985年頃の千葉県船橋市の団地に暮らす人たちを撮影した写真で、その人たちの生活は変わらずに続いているのだろうか。写真を撮ってプリントした時から、時代の節目を何回も経ても写された時の私が今もここにある、とプリントは語りかけてきた。

当時写真を撮らせてくれた二人の女性に会った。二人ともそれぞれに30年という年月を感じさせた。撮影した頃の話も30分ほどした。別れた後に、彼女らのことは今の顔ではなく写真の中の表情がリアルに思い浮かんだ。なぜだろうか、ふとそう感じた。

30年前に写真展や写真集で見ている人たちにもう一度見てほしくて今回の展示をすることにした。

北井 一夫

## ■オープニングレセプション

日時：2018年6月1日（金）20:00 - 21:00

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

## ■トークイベント

日時：2018年6月1日（金）19:00 - 20:00

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

登壇者：北井 一夫 × 鷹野 隆大(写真家)

※事前申込制、参加費：無料

## 鷹野 隆大 (写真家)

1963年福井県生まれ。

2006年『IN MY ROOM』（蒼穹舎）で第31回木村伊兵衛写真賞受賞。

主な個展に、1999年「人体-その等倍という幻想」、2006年「男の乗り方」、2010年「金魚ブルブル」（いずれもツァイト・フォト・サロン）、2012年「モノクロ写真」、2014年「2014年1月から比較的最近まで、撮影順に」（いずれもユミコチバアソシエイツビューイングルーム新宿）など。主なグループ展に、2001年「手探りのキス 日本の現代写真」（東京都写真美術館 他）、2008年「液晶絵画 スティル|モーション」（国立国際美術館 他）、2014年「これからの写真 光源はいくつもある」（愛知県美術館）、2015年「愛すべき世界」（丸亀市猪熊弦一郎現代美術館）などがある。パブリックコレクションとして東京都写真美術館や国際交流基金、太宰府天満宮、上海美術館、JPMorgan Chase Art Collectionに作品が收藏されている。

## 【お申し込み方法】

件名「トークイベント参加」、本文に、参加人数、お名前、電話番号をご明記のうえ、[event@ycassociates.co.jp](mailto:event@ycassociates.co.jp)までメールでお申し込みください。

\*定員（20名）になり次第、受付を終了いたします。

\*ギャラリーからの返信メールが届かない場合は、営業時間内にお問合せください。

## ■その他

### 【個展】

北井一夫 写真展『プロパガンダ - 神戸港沖仲仕 - 』

会期：2018年4月26日（木） - 5月28日（月）

会場：BOOKS f3（ブックス エフサン）

〒950-0075 新潟県新潟市中央区沼垂東2丁目1-17

※トークイベントあり

日時：2018年5月27日（日）13:30 開場 14:00 - 15:00

定員：20名 参加費：1,500円

<http://booksf3.com/photo/album/335246>



※2018年6月14日(木) - 7月12日(木)、船橋市西図書館で個展「フナバシストーリー」を開催予定です。詳細が分かり次第お知らせ致します。

[グループ展]

日本の現代写真の源流展「Around the small sea-photography from Japan」  
会期：2018年6月9日(土) - 8月22日(水)  
会場：古隠写真美術館(韓国釜山)  
[http://www.goeunmuseum.org/english\\_index1.php](http://www.goeunmuseum.org/english_index1.php)

[トークイベント]

ZEN FOTO GALLERYにて行われる西村多美子展のトークイベントに、ゲスト参加致します。  
日時：5月12日(土) 16:00 - 17:30  
会場：ZEN FOTO GALLERY  
〒106-0032 東京都港区六本木6丁目6-9ピラミデビル2階  
登壇者：西村 多美子(写真家) × 北井 一夫  
※予約不要・参加無料  
<http://www.zen-foto.jp/web/html/exhibition-next.html>

[書籍]

北井一夫のインタビューが掲載されたレーナ・フリッチュ(元テート・モダンキュレーター)著「Ravens and red lipsticks」が、Tames and Hudson社より、その日本語翻訳版が青幻舎より刊行されます。

『Ravens and Red Lipstick』(仮邦題：『日本写真史 鴉と赤い口紅』)

刊行：2018年9月予定

仕様：A4変型、287ページ

予価：5500円+税 ※Thames and Hudson社刊。日本語版(青幻舎刊行)と同時進行にて制作

部数：2,000部

著者：レーナ・フリッチュ(元テート・モダンキュレーター)

日本語版監修者：飯沢耕太郎

■作家プロフィール

北井 一夫 (きたい かずお)

1944 中国・旧満州鞍山市に生まれる

1963-65 日本大学芸術学部写真科入学・中退

[主な個展]

- 2016 禪フォトギャラリー(東京)
- 2015 MIYAKO YOSHINAGA (NY)
- 2014 「To the Villages - Kitai Kazuo's Classic Photography」Aki Gallery (台北)
- 2012 「神戸港湾労働者」ギャラリー冬青(東京)  
「いつか見た風景」東京都写真美術館(東京)  
「ジョン・ゴセージュと2人展/バリケード」Harpers' s Books Gallery (NY)
- 2011 「Walking with Leica3」ギャラリー冬青(東京)  
「湯治場」禪フォトギャラリー(東京)  
「西班牙の夜」ギャラリー冬青(東京)
- 2010 「中国1973」禪フォトギャラリー(東京)  
「Walking with Leica2」ギャラリー冬青(東京)
- 2009 「Walking with Leica1」ギャラリー冬青(東京)
- 2008 「ドイツ表現派1920年代の旅」ギャラリー冬青(東京)
- 2006 「80'フナバシストーリー」ギャラリー冬青(東京)
- 2004 「1990年代 北京」ギャラリー冬青(東京)



- 2004 「1990年代 北京」 イルテンポ (東京)
- 2002 「北京」 イルテンポ (東京)
- 2000 「北京」 イルテンポ (東京)
- 1999 「湯治場」 ツァイト・フォト・サロン (東京)  
「三里塚」 イルテンポ (東京)
- 1997 「北京」 イルテンポ (東京)
- 1996 「鳥虫戯画」 イルテンポ (東京)
- 1994 「おてんき」 イルテンポ (東京)
- 1992 「新鳥獣戯画」 イルテンポ (東京)
- 1990 「いつか見た風景」 イルテンポ (東京)
- 1987 「フナバシストーリー」 船橋市市役所 (船橋)
- 1984 「一九六〇年代パリエード」 ピクチャーフォトスペース (大阪)
- 1978 「村へ」 ツァイト・フォト・サロン (東京)
- 1976 「村へ」 ミノルタフォトスペース (東京)

#### [主なグループ展]

- 2018 「Photo London2018」、Yumiko Chiba Associates ブース、サマセットハウス (ロンドン、イギリス)
- 2017 「Paris Photo 2017」 グラン・パレ、Yumiko Chiba Associates ブース (パリ、フランス)
- 2017 「Photo London2017」、Yumiko Chiba Associates ブース、サマセットハウス (ロンドン、イギリス)
- 2016 「PROVOKE: Between Protest and Performance-Photography in Japan 1960-1975」 シカゴ美術館 (シカゴ、USA)、ル・バル (パリ、フランス)、ヴィンタートゥール写真美術館 (チューリッヒ、スイス)  
アルベルティナー美術館 (ウィーン、オーストラリア)
- 2015 「For A New World To Come: Experiments in Japanese Art and Photography, 1968-1979」  
ヒューストン美術館 (ヒューストン USA グレイ・アート・ギャラリー (NY, USA)、ニューヨーク大学 (NY, USA)、ジャパン・ソサイエティ (NY, USA))
- 2013 「日本写真の1968」 東京都写真美術館 (東京)
- 2009 「異郷へ 写真家たちのセンチメンタルジャーニー」 東京都写真美術館 (東京)
- 2007 「昭和 写真の1945-1989」 東京都写真美術館 (東京)
- 2006 「Gazing at the Contemporary World: Japanese Photography from the 1970s to the Present」  
ジャパンファンデーション (NY, USA)
- 2005 「時代を切り開くまなざし-木村伊兵衛写真賞の30年」 川崎市市民ミュージアム (川崎)
- 1995 「木村伊兵衛写真賞20周年記念受賞作展~22人の奇跡~」 キャノンギャラリー銀座 (旧キャノンサロン) (東京)
- 1992 「戦後写真と東北2」 宮城県立美術館 (仙台)
- 1991 「日本の写真1970年代」 東京都写真美術館 (東京)
- 1985 「パリ・ニューヨーク・東京」 つくば写真美術館 (茨城)
- 1977 「イタリア写真家と11人の日本写真家」 イタリア文化会館 (東京)
- 1976 「Neue Fotografie aus Japan, Stadtmuseum Graz mit Museumsapotheke」 (グラーツ、オーストリア)
- 1974 「15人の写真家」 東京国立近代美術館 (東京)

#### [主な受賞歴]

- 2017 Paris Photo2017' Guest of Honour for Paris Photo by Karl Lagerfeld, J.P Morgan Curator' s Highlights
- 2013 日本写真協会賞作家賞
- 1976 木村伊兵衛写真賞
- 1972 日本写真協会新人賞

#### [パブリック・コレクション]

船橋市役所 (船橋市)、東京都写真美術館 (東京)、宮城県立美術館 (仙台)、東京国立近代美術館 (東京)、シカゴ美術館 (シカゴ、USA)、ヒューストン美術館 (ヒューストン、USA)、Pier 24 Photography (サンフランシスコ、USA)、サンフランシスコ近代美術館 (サンフランシスコ、USA)、JPMorgan Chase Art Collection